

第14回 定例ワールドカフェ (12/3) 感想 (2023.1.16 現在)

話題提供：思春期の子どもを支える会の今とこれから

提供者：古山美穂 (大阪公立大学)

当日参加者：7名

感想 (Google Form) 回答者：6名 (分野_教育1名、福祉1名、医療4名)

- ・古山先生、ありがとうございました。わたしはミルクポットより、ハニーポットの方が好きです！じっくりきました。私が話した漏斗は施策や支援の制度のつもりでしたが、皆さんのお話を聞く中で、支援者の技量と考えると、それは注ぎ方かなと思いました。小さな口のポットには細くゆっくりとか……。そうすると技術力の差がでてしまうけど、漏斗をもってれば注いでさえくれたらある程度は入ってくれるかなと。漏斗をもってくるのが最初に気づいた支援者なのかもしれませんが、やはり支援者は横のつながりや知識がないとそれができないのかもしれないですね。そういう意味でも、妄想が自由に語れてつながれるこの場所は大切だと思います。私は第2、第3土曜が出勤日になるので、ばたばたしてると参加ができなくなってしまうのですが、続けて参加すると「やっぱり参加しないとな」と感じます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。
- ・中室牧子さんの講演、私も聞きたかったです。あれに出てくるベリー幼稚園みたいな、日本でも、と思いますが、先生は皆、大学院卒。フィンランドの教員も皆、大学院卒で人気の仕事。教育にお金をかけない国は衰退するだけだと、田中角栄さんは気がついて待遇改善されたけど、他は✖ですから。助援力、初めて聞きました！勉強になりました！あと、学校の風通し悪さの話。昔、学年主任してる時、何でごちゃつく前に相談してくれへんかったん？と聞くと、森岡先生、管理職に報告するでしょ？ということがあったのを思い出しました。30人のあかんやつがおる学校どこ？気になってしゃーないわ笑
- ・本日のお話を聞きながら、まずは自分のことを考えました。私は幸せなことに、愛着形成されながら育ったと思います。そのため受援力もそこそこ高く？、合わない職場は早々にやめることもでき、自分に向いていると思っている（思い込んでいるかもしれませんが）仕事をするのができ、その仕事も周りの人のサポートのおかげでよいスタートをすることができました。親にも同僚や仲間にも感謝したいと思います。非認知能力についてまとめて提示していただき、ありがとうございました。自分の中でもやもやしていたことが整理されました。あの人のこと、この学生さんのこと、色々と考えました。整理はされたのですが、ここからどのように彼らに働きかければいいのか？悩んでいます。ご助言いただいたように「評価される」と思った瞬間、人の受援力は低くなり、自己肯定感も低くなるのですね。私が評価しようと思っているわけでもないのですが、相手に評価されると思われたらいけない。関わり方として、この点に注意していかなければならないと意識しました。非認知能力を高める働きかけ、何かよい方法がありましたら、またいろいろな方に教えていただきたいなあと思います。今後ともよろしく願いいたします。

- ・この活動は、子供達と関わるさまざまな職種が、それぞれ抱える問題やジレンマなど、会を通して情報共有できる場であり、顔の見える交流に大きな意義を感じています。ワールドカフェでは、教育の現場で、新しい試みを実践され、子どもの居場所づくりをされている活動を知ることができたり、狭い組織の枠の中では知り得ない情報や、新しい取り組みを知る機会となり、励みになることも多くあります。組織の中では慣習や縛りがあり身動きが取れないこともありますが、それぞれの専門の知識や知恵、経験を出し合うことで、古山先生の言われる化学反応がおきることは、とても素晴らしいことだと思います。最近では、子供たちが夢を持つキッカケになればという思いから、看護という仕事の魅力を高校生に伝えるに行ったりしています。この会を通して子ども達と一緒に何かできることってないかな？と漠然と考えます。人との関係性が希薄になっている今だからこそ、余計に考えしまいます。
- ・今回、アーカイブですが見させて顶きました。この中で古山先生が話されていた継続した同じ人が関わる重要性、親以外の伴走者など、全部のお話がすごく心に染みしました。私も、データや研究結果は？等と言われたら…となってしまいますが、少年院での継続した面談の中で、面談を重ねていくことで大人なんて信用していなかったと話す目の前の対象の子達が、こんなにも話を否定せずに聞いてもらう場が無かったと話したり、面談の場が気持ちのイライラやモヤモヤを手放す場になっていったと話していたことと重なり、伴走者の重要性を大きく頷きながら聴かせて頂きました。最後のデータの否認認知能力の幼児期や小学校の先生やその時期に関わる支援者の大切さも、本当にその通りなんだなと実感しております。本当に有意義なお話をありがとうございました。また、古山先生のお話聴かせていただきたいです！
- ・鎌倉殿の13人の主役小栗旬さんが、テレビで話していたことを盛り込むの忘れていました。歌舞伎やミュージカル、劇団など、俳優さんそれぞれが歩んできた道、経験、強みといった1人1人の能力を最大限発揮できる場づくりの重要性についてでした。緊張する現場では、チームで最高のパフォーマンスを行うことはできないと。ドラマが進行して、チームの雰囲気がすでにできあがっている時は余計に、後から入ってくる俳優さんが緊張しないように努めているという話でした。この思春期の子どもを支える会もそう、医療や学校、それぞれの分野の職場もそう、子どもだけでなく、私たち仕事をしている側も1人1人が大切にされていると思える雰囲気が重要なんですよね。こびりついた文化や慣例を温かいチームワークで溶かしていけたらいいですね（古山）。